

令和3年度第4回新発田市子ども・子育て会議 会議録 概要

会 議 名	令和3年度第4回新発田市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和4年3月9日（水）午前9時30分～11時30分
開 催 場 所	健康長寿アクティブ交流センター 屋内広場
議 事	1. 令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第4章施策の展開」（案）について 2. 令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第5章幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業」（案）について
出 席 者	【委員】 金山会長、木村副会長、松田委員、鈴木委員、大堀委員、鶴巻委員、伊藤委員、吉井委員、齋藤委員、大倉委員、阿部委員、高橋委員、坂井委員、服部委員、平野委員、小林委員 【説明課】 （健康推進課）中野課長、（青少年健全育成センター）狩野課長補佐、（学校教育課）小野沢課長、（地域安全課）見田課長、（人権啓発課）小野課長補佐、（社会福祉課）榎本課長 【事務局】 （こども課）沼澤課長、佐久間課長補佐、小室課長補佐、渋谷係長、宮村係長、石倉主任
欠 席 者	皆川委員
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1人
配 布 資 料	①「令和3年度第4回新発田市子ども・子育て会議次第」及び「委員名簿」 ②新発田市子ども・子育て会議席次表 ③令和4年度 新発田市子ども・子育て支援事業計画「第4章 施策の展開」（案） 資料1 ④令和4年度 新発田市子ども・子育て支援事業計画「第5章 幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業」（案） 資料2 ⑤令和4年度における教育・保育の量の見込みについて 資料3 ⑥第2期 新発田市子ども・子育て支援事業計画「第4章 施策の展開」における具体的事業の改正について 当日配布資料
議題1 令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について	
各説明課	議題（1）について各々説明
高橋委員	学校における新型コロナウイルスの感染症対策においては、先生方に本当にご尽力いただき感謝している。学校では、新型コロナウイルス陽性の児童生徒が出た場合、当初は翌日が臨時休校というような対応をとっていたが、途中から学級閉鎖や学年閉鎖という対応に変

	<p>更していただき感謝している。授業の時数の確保が理由とのことだったが、特に最高学年の子どもにとっては残り少ない学校生活、1日でも多く学校に通いたいという気持ちが強く、このような対応をとっていただきまして本当に保護者としては嬉しく思っている。</p> <p>また私だけでなく周囲の保護者からも同様の声が上がっていたのでこの場を借りてお礼を申し上げたい。</p>
大堀委員	<p>「NPOファザーリングジャパン」で父親が子育てや家事育児に参加していただける環境づくりの活動をしている。</p> <p>5ページの43番育児教室で、母親向けの教室はあるが、同時に父親向け教室もやれるといいと思っている。</p> <p>例えば母親学級を何回かの連続講座で開催していると思うが、その中に一つ父親向けの講座もしくは夫婦で参加できる講座、男性の家事育児参画や男性の育休取得の話をする講座はある。自治体によってやっているところとやっていないところの格差が大きい。私もここは開催していただきたいと思う。4回講座とか3回講座の一つは父親向けの講座を検討していただきたい。予算や人員対応もあるが、新発田市ではどのように考えているか。</p>
健康推進課	<p>父親の育児参加については非常に大事なことだと思っている。すこやか育児教室については、かなりのお父さんが参加していただいている。</p> <p>令和2年度は、コロナウイルスの関係で、すこやかマタニティ教室が実施できていない。すこやかマタニティ教室にもお父さんの方がたくさん参加いただけるよう、しっかり取り組んでいきたい。個別の父親向けの教室については、引き続き検討させていただきたい。</p>
大堀委員	<p>今、国で「こども家庭庁の創設」が検討されているが、いろいろな課が関わって、こどもに対してアプローチをしている。文科省があったり厚労省があったり、行政、自治体は縦割りになっていると思うが、それをできるだけ縦割りでなくて、一体となってやっていくというところで、こども家庭庁が創設される。今後新発田市としても横の連携、縦割りではない、横断的な取り組みをしなければいけないと思う。見解や準備状況についてお聞きしたい。</p>
こども課	<p>こども家庭庁については、いろいろな省庁から権限を集めるというところで、少ない情報量ではあるが、国から様々な通知が届いているところである。</p> <p>ただ全容がまだつかみ切れていないような状況であるが、まずは子どもということを考えれば、当課が中心となって新発田市役所の全庁に呼びかけをしていかなければならないと思っている。</p> <p>個別の様々な事業において、今、各課と連携をとっていることを足場に、市民の皆様に混乱のないようにしっかりとやっていかなければならないと思っている。</p>
大堀委員	<p>今までもこういう省庁が作られなければならないということではなく、課題はあったと思う。県もそうだが、縦割りになっていてかぶっていることがあった。これから人口が増えていくわけでもないし、予算が大きくなるわけでもないので、最大効果となるように行政内でしっかりそこを考え、改善を進めていただき、少ない予算でもしっかりした効果が出る、横の連携という部分をよく検討していただきたい。</p>

金山会長	市役所内での連携についてお願いしたい。
服部委員	<p>41 番の産後ケア事業について、ぜひこの事業を進めていただきたいと思ってお願いしたい。</p> <p>新発田市は今までは宿泊型が中心だったが、利用者の話を伺っていると、なかなか敷居が高くて利用できない。費用の面もなかなか大変だということで、新発田市はなかなかそれが進まなかった。</p> <p>近隣の聖籠町とか新潟市は宿泊型や外来型、訪問型をかなり早くから取り入れていて、利用者もかなり増加しているので、子どもを支援するという形でぜひ進めていただきたい。</p> <p>実際進めることになったときには、妊産婦さんたちへの PR とかを一生懸命やっていた環境作りをしていただきたい。</p> <p>それと先ほど父親の育児参加ということで話があったが、実際、新生児訪問させていただいていると、本当にこのコロナの時代になってからお父さん達がみんな育休を取られて、かなり自宅でお母さんと一緒に育児をされる方が非常に多く見受けられるようになった。そのお父さん達からお話を聞くと、子育てに慣れない、どうしていいかわからないという話を実際聞いている。</p> <p>父親への育児教室とかをもっとしっかり充実させていただきたい。育児教室とかになると平日の昼間ということなるが、父親が参加できるような時間帯の設定、できれば夕方とか、融通を付けていただければもっと多くの方が参加して父親の育児参加ができると思うので今後ご検討をいただきたい。</p>
健康推進課	<p>産後ケアにつきましては、新生児訪問に行っていらっしゃる方と参加の医療機関の方からご意見をいただき、今回予算要求することになったので、しっかり PR をしていきたい。また育児教室の充実につきましても、大切な問題だと思っている。</p> <p>なお、新型コロナウイルスの関係もあって、どういうふうにしたらいいのか引き続き継続検討させていただきたいと思っている。</p>
坂井委員	<p>障がいのあるお子さん、障がいのある方の相談支援を行っている。</p> <p>障がいがあっても、子どもを産んで育てることが、安心してできる事業になるかもしれないと訪問型にかなり期待している。よろしくお願いしたい。</p> <p>障がいのある方の絡みもあるが、防犯、いじめ自殺に関わるところで、インターネットとか SNS の利用に関するところの取り組みが今どういうふうになっているのか。</p> <p>それと昨年9月に、医療的ケア児支援法が施行されているが、医療的ケアを必要とするお子さんをお持ちのご家庭の負担を軽減しようというのと、医療的ケアがあっても生まれた地域で、そのままケアを受けながら保育や教育を受けられるようにしていこうという法律ですが、そこに向けての取り組みや動きがあればお聞かせいただきたい。</p>
学校教育課	<p>学校では今年度から GIGA スクール構想の実践に伴い、1人が1台ずつタブレットを所持することになった。家庭の持ち帰りも可能で、授業でも、とてもたくさん活用している。このタブレット配布時に各学校では必ず、タブレットの利用の仕方、インターネット等の</p>

	<p>活用の仕方について、そしてまた、そういったものを使っていじめ等が起こらないように、他人に対しての誹謗中傷をしない、勝手に写真を撮ったりしないようなど、様々なルールを子どもたちとともに確認をしたうえで、タブレットを活用している。また、導入時だけではなく、何か好ましくない事案があった際にはそれを振り返りながら、子どもたちがしっかりと正しい活用ができるように指導している。</p> <p>また、人権教育・同和教育においても、こういったインターネットを使った誹謗中傷等があるというような事案が新聞等でもありますが、こういった事案があった際にも、学校では正しい知識で正しい判断ができるように、子どもたちの指導に努めている。</p>
こども課	<p>こども課における医療的ケア児の今後の取り組みということだが、当課では、法律がきちんと定められる前からこれに関しては大きな課題だと受け止めており、可能な限りご希望する園への入園を実現させたいという強い思いはある。</p> <p>実際のところ、利用したい保育と提供できる保育の差があったりしたことから、なかなか実現していなかったものであるが、市としましては、この医療的ケア児の入園については、まずは新発田市立の保育園が、その先頭を切って、受け入れ体制を整えようということで、医療の現場も大変ですけれども、保育の現場における医療職の確保というところに力を入れおり、何とか今年度途中に1名採用することができている。</p> <p>また、物理的にベットを置いたりということが可能な園も検討しており、当該の園の園長には保護者からご希望があったときには、一番に検討してもらおうよう、打ち合わせを行っている。</p> <p>具体的に医療的ケアが必要なお子さんで入園を希望する方がいるか否かの情報共有につきましては、健康推進課の健やか育児支援係の担当係長と当課こども発達相談室の担当係長がきめ細かく情報共有しており、私の方にも何人かの方が保育の利用があるかもしれないという情報をいただいている。保護者様のご意向を伺いながら様子を見守っているところである。</p>
坂井委員	<p>医療的ケア児支援法への対応について、先々のことを考えれば、ライフステージごとに一貫して整えていかなければいけないということで我々も他人事ではないと思っている。</p> <p>一緒に協力できる場所に関しては、一緒に取り組みをさせてもらえればと考えている。これはまた医療的ケアのお子さんだけに限らないと思うので、どのぐらいの障がいのあるお子さんがいて、その障がいのあるお子さんがどのぐらい教育と繋がっていったって、教育が終わったあとどのぐらいの学生さんたちが地域に出ていくのか、というそのライフステージの縦の流れも、ライフステージごとの横の連携と縦の連携をぜひ一緒に整備していければありがたいと思っている。</p> <p>その中でニーズを見込みながら、我々の方も将来に向けた整備、何が必要なのか、一緒に考えさせていただきたいと思っている。子ども・子育て会議に障がいの関係者を構成員として入れていただいている自治体というのがおそらく全国を見てもかなり少数であって、新発田市のように入れていただいているところは少ないというふうには聞いている。こういった形がせつかくあるので、こういったものを足がかりに、さらに連携を進めさせてもらえればと思っている。</p>

大堀委員	<p>毎年保健委員会とかで体力測定をしていると思うが、このコロナ禍において自宅待機や学校閉鎖があったりとかで子どもたちの体力低下は、どれぐらいの状況になっているか教えていただきたい。そういうデータはあるのか。</p>
学校教育課	<p>データについては、今手元にありませんので正確なことはわからない。県が実施している体力テストがあるが、コロナ禍に入り、このテストを縮小したり、しなかったりする学校もちろんあり、それでいいというふうに県から指示が出ている。そういう学校も出てきており市全体としてどうというデータはなかなか得にくくなっている。</p>
大堀委員	<p>体力低下については、子どもたちを見ていると、少し顕在化してきていると思う。</p> <p>体力向上の対策をやっていただいた方が、将来、コロナウイルスがなくなって、普通の状況に戻ったときに始めるのでは若干遅くなってしまわないかと思う。ぜひ検討をして、データが取れたら取っていただき、取れているところがあれば比較検討していただきたい。何かしら対策をするなり、予算付けをするなりの方法があると思う。</p> <p>家庭でできる体力作りとか、私もファザーリングジャパンでオンライン体操教室をやったことがある。家庭でちょっと遊べる方法とかお父さんと遊べる方法とかいろいろあると思う。</p> <p>ぜひデータをしっかりとっていただいて、うまく体力が作れるようなとか、学校が楽しめるような対策をぜひ立てていただきたいと思う。</p>
学校教育課	<p>体力の低下については、学校教育課の方もやはり危惧しております。このコロナ禍のために従来通りの活動がかなり制限されている。体育の授業をやめたりとか、蔓延防止の期間は部活動を休止にしましたが、部活動をやめたりとかいうことはせずに、できるだけ子どもたちの運動に関する学びも保障するようにしながら体力維持については考えている。</p> <p>今大事にしているのは、体育の授業の中で子どもたちに、達成感や、あるいは集団で何かやるときの楽しさとか、そういった喜びを感じられるような体験を積み重ねることによって、このコロナ禍が終わったときに、運動に進んで取り組める素地を育成できるのではないかということで、今後も運動の方も学びを止めないような形で進めていくようにしたいと思っている。</p>
大堀委員	<p>坂井委員からご質問があった通り GIGA スクールについて、計画よりかなり前倒しになった。先生方の IT リテラシーの教育もなかなか追いつかないと思う。現状を教えてください。</p> <p>PTA 関係の講演会で聞いたが IT とかオンラインゲーム、YouTube、すごい状況なので、やっぱり依存性が非常に高い。依存に陥らないように、親の世代も先生方も、どういうふうに子どもたちと付き合うべきかベストな方法ってなかなか出ていないと思う。</p> <p>今後、統計で必要なのは、どれぐらい家庭内で IT を使っている時間があるか、睡眠時間の確保ってどれぐらいできているのか。</p> <p>子どもたちに対してアンケートは取っていると思うが、細かく、何時に寝て、何時に起きて、どれぐらい IT・メディア に付き合っているのかなど、今後データとしてあった方が、対策が立てやすいと思うので検討していただきたい。</p>

学校教育課	<p>一点目、教職員の ICT 活用についてであるがご指摘の通り、かなり前倒しになって GIGA スクール構想が始まったことにより現場の方もかなり戸惑いがあった。</p> <p>また導入についても差があり、5月にタブレットの導入がスタートし、最後は7月になった。GIGA 開きといいまして、GIGA サポーターである新潟ラインズが教育委員会と連携して、実際に学校の方に行きまして、こういうふうを活用してほしいとか、こういうことを子どもたちにもきちんと話をしてほしいとか、家庭にも紙面でこういうのを伝えてほしいとか、そういったオリエンテーションがあり、それを受けてからのスタートになった。初めにスタートした学校は時間をかけてやることができたが、なかなか後半にスタートした学校は難しいところがあったが、まず夏休みを使い、教職員の研修を各学校で、私なんか予想するよりも、意外と堪能な方々、特に若い先生方が非常に扱いに慣れており、若い先生方が中心になって、ICT の活用について研修会を各学校で開くような形になった。</p> <p>本気でオンラインの授業をやらないと、子どもたちに学びが保障できないということで各学校でも試行錯誤しながらカメラを設置してそのままやったり、カメラを2台使ったり、あるいは慣れてくると双方向で授業に参加していただいたりしながら、学校が休みとなっている期間、朝の会議をタブレットを使って先生がやったりとか、そういった活用が先生方の ICT 活用のスキルを上げる一助となった。</p> <p>この ICT はやはり手段であって、目的でないわけで、これをいかに活用して質の高い授業をできるのかということに少しずつシフトしてきている。苦手な先生方についても、各学校で全く使わない先生がいることのないように取り組んでいるとの報告を受けている。</p> <p>2点目。メディアの依存性について、これはコロナ禍になったからではなくてずっと前から、学校教育の中でも危惧されている観点の一つである。</p> <p>このメディアについては、学校だけではどうすることもできず、どうやったら家庭と連携し、また地域とも連携ができるかということで今もまだ課題の一つとなっている。先ほど出ました睡眠時間の確保、これも健康教育の中の一つですので、それも一緒にしまして、学校教育の中でできることを進めていきたいと考えている。</p>
大堀委員	<p>いきなり GIGA スクールで先生が大変だと思う。ぜひそういったケアも含めて本当に頑張っている先生方を応援できるように我々も地域とか PTA とか、一体となって学校教育に協力しながらやっていかなければいけないことだと思う。</p>
鈴木委員	<p>加治川中学校では校長先生が一生懸命で、今、大堀委員から言われたようなことについて、実際に「眠育（みんいく）」っていうことで取り組んでいる。</p> <p>またメディアについても、生徒一人一人の接触時間とか、睡眠の時間をとりまとめて、個別指導をしていると思う。学校それぞれによっていろいろな取り組みがあるが、加治川中学校については、PTA の3点固定っていうものを推進しながら、取り組んでいる。</p>
鶴巻委員	<p>先ほどの GIGA スクールのことについて、追加で伺いたい。導入にあたっては、国が1人9万円のうちの半分4万5000円を負担していると聞いている。今後、そのタブレットに関して、まず一つはタイムレスが多分あると思う。通常の企業の耐用年数は4年だと記憶しているが、他市で聞くと、5年は使うという話を聞いている。例えば今年1年生がも</p>

	<p>らった場合、それを6年使うのか、5年だから5年生まで使って、6年生になったら新しくなるのか。</p> <p>もう一点は、これも他市で聞いたが、6年生で貸与され、中学に入ったら置いていくことになっていて、そのタブレットがどうなるかという処分できないので、1年生に貸し与えするとなると、1年生は中古タブレットになる。問題は付属のカバーがボロボロになること。買い換える予算が取れないので、ボロボロのものが当たる子もいるという話が出ている。新発田市はどう対応しているのか。</p> <p>補修は保証の対象に入っていると思うが、保証の対象外になっているケースはどのぐらいあって、その負担額はどのぐらいか。</p> <p>保守の負担をしているのは、保護者なのか教育委員会なのか。保守の対象外となる場合はどのようにしているのか伺いたい。</p>
学校教育課	<p>耐用年数と交換時期等につきましては何年というところが決まっていると思うが、タブレットの施設設備については、教育総務課の方が管轄となっている。学校教育課の方はそれを使ってどうするかということで、学校とのやりとりをしている。</p> <p>ただ、交換の時期が来たら必ず一斉に交換という形になると思うが、その際に国からお金が出るかという、そこはもう出ないのではないかと考えている。</p> <p>また使い回しについて、使ったもので余っているものを再利用していくという話は既に聞いている。ものすごく傷んでいるものについては排除するよう話をしていきたいと考えている。</p> <p>また補償についても、壊れて修理に来ると、予備を貸与するような形で学びを止めないようにしている。その補償の金額等についてどのような形で支払われているかということとは資料がなく明確な答えができない。</p>
鶴巻委員	<p>管轄が違うということ。運用は学校教育課で教育総務課が管理するという形になっているということにはわかった。</p>
木村副会長	<p>当日配布資料の施策の116について伺いたい。今までの再就職支援という視点から、受け入れ側の企業の意識改革ということで、女性男性問わず働きやすい環境を作るためにはとても良い取り組みだと思う。</p> <p>目標が、健康経営に取り組む企業数80社というふうに設定されているが、こちらは市内の企業全体でいうとどれぐらいの割合になるのか。また、この80社という目標を設定した理由、背景があれば教えていただきたい。</p>
こども課	<p>商工振興課の方に確認し、割合と理由を皆様に後ほどお知らせしたいと思う。</p>
木村副会長	<p>まずは80社の目標達成をして、できるだけ早く市内全体にこういった考えが行きわたると、とても働きやすくなると期待している。</p>
金山会長	<p>76番の被害に遭った子どもの相談件数0件が計画数値に盛り込まれており、相談がありしだいに対応しますということだが、情報が行き渡っているかどうかちょっと心配である。</p> <p>0件なのは理想ですが、学校や警察などを通して、ここにこういう相談ができますよと</p>

	<p>いう道筋がきちんとあるのか。</p> <p>82番のひとり親家庭自立支援給付金事業ですが、人数があまり伸びてこないというご説明が社会福祉課からあったが、こちらも情報が届けられているのか。</p>
地域安全課	<p>新発田警察署との連携につきましては基本、犯罪被害とか、そういう抽象的な部分の被害にあったということについては、直接市の方に入ってくるというものではないので、警察の方で、最初に、カウンセリング等をする。</p> <p>その中で例えば学校関係とかで、ちょっと性的な問題となると専門的な部署に連絡するという形で、都度、連携を保っている。</p> <p>仮に地域安全課にご照会あった場合につきましては、お話をお聞きして、一番悪いのは、たらい回しになること。それがないように一番適した場所の相談窓口にお連れし、迅速に対応できるようにしている。</p>
社会福祉課	<p>82番のひとり親家庭自立支援給付金事業について周知がどの程度図られているかというところですがけれども、児童扶養手当の受給者には、全て個別通知をしており、一定程度周知が図られているというふうに考えている。</p> <p>実際にその児童扶養手当の方の現況届というのが、8月に提出していただいて、その際に全ての方と面談をするが、その中で、資格を取って職を変えるところまでのニーズは低いということは実際に面談している職員から聞いている。</p>
	<p>出席委員全員の挙手で、次第3の議題（1）「令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第4章施策の展開（案）について」については承認された。</p>
<p>議題（2）令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第5章幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業（案）について</p>	
こども課	<p>議題（2）について説明</p>
大堀委員	<p>これまで待機児童対策として保育量を増やそうというところできたが、新発田市だけではなく全国的にも昨年度だと84万人ぐらいまで出生数が減っている。</p> <p>新発田市も多分、減ってきている状況で今後、ニーズ量と確保量の差が出てくると、定員割れを起こしていく。</p> <p>そうすると、保育園・幼稚園の収益性が下がって、私立の方は経営がちょっと大変になってきて、さらに保育士さんの雇用が厳しくなるというような逆転現象が起きてくるのも将来的になんともなく見える。その辺の政策について、公立園をどんどん減らして、民間の私立園を維持していく方向なのか。</p> <p>保育人材の確保、保育だけでなく建設業でも人材不足。どこ行っても、求人してもなかなか人が来ないという状況で、ワークライフバランスをやりましょうとか、健康経営をやりましょうというような形で、いかに働く方々の雇用環境を良くするかということを考えていかなければいけない。民間の企業だけに任せておくだけでなく、当然こういう支援事業を進めているのはすごくいいことだと思う。さらにもう一つ突っ込んで行きたいところが、保育士さんの離職率ってどれぐらいになっているのか。有給休暇の取得率や残業時間について、データがあれば教えていただきたい。</p> <p>研修をやりと書いてあるが、園の経営にあたる方がいいのか、保育士さん自身について</p>

	<p>やった方がいいのか、データがないと適材適所の研修ができないと思う。</p> <p>働き方とか保育士さんの雇用環境を良くするために、行政も含めてしっかり手当てしていかないと、今後またさらに大変になると思う。</p>
こども課	<p>出生数の減少に伴って、園の定員割れが心配されるという点だが、委員さんご想像の通り推移していくイメージを市の方も持っている。</p> <p>ただ、公立保育園が中心市街地に近いところにはございませんので、ここの定員を絞っていくということをして保護者のニーズと合わないことも考えられる。まずはそれでも市街地に近いところの定員というものは私立さんの方の定員とよく見比べて、定員を決めていかなければならないと思う。</p> <p>ただ保育士の配置というのは、小さいお子さんについては3対1とか6対1といったところで、定員管理や、短い期間でも決めやすいところがあるが、大きいお子さん3歳以上になりますと、15対1、20対1、25とか30対1というような配置になってくる。ここについては先生の数を減らせないというところでは、経営がやはり圧迫される要因にもなりますので、そこに市がどういった手当をしていくかということが、私立の先生たちといろいろなお話をしている中でクローズアップされていって、意見交換をしながら園の皆様が安心して経営できるような、施策を考えていきたいと思っている。</p> <p>人材不足に関しては、公立保育園、幼稚園に関しても、大変悩んでいる。</p> <p>特に最近では定年退職を待たずしての退職希望があることから、離職率というのは上がってきている。有給休暇、それから残業ということについてもデータはあるが、今日はその数字は持ち合わせていない。</p> <p>有給休暇は必ず5日は取得する。それ以外に夏季休暇を5日取得するといったことで、休むということに関してはだいぶ改善されてきていると思っている。休んでしまうと、先生たちは子どもたちのためにしてあげたいことが、日々の業務の中で積み残ることがあって、時間外もなかなか減らせないという現実があるが、1か月で40時間を超えるような残業は当市の公立保育の現場では起こっていないというのが実情である。</p>
大堀委員	<p>首都圏、東京とかは既にかなり進んでいる保育園・幼稚園も出てきていて、有給休暇取得率100%、残業ゼロ、ゼロ近いという保育士の雇用環境を作り出している。</p> <p>先進的な話だと思うが、ぜひそういったところを目指していただければ保育士さんも辞めずに、雇用を継続していただける、底上げは絶対できると思う。いますぐ一長一短で、一朝一夕にできるわけではないが、ぜひ市としても幼稚園、私立園も、公立園も含めてその辺の雇用環境改善に取り組んでいただきたい。</p>
鶴巻委員	<p>資料3についてちょっと伺いたい。</p> <p>2番の令和4年度の状況で、ニーズ確保量というふうにあるが、1歳、2歳児と分けてもらいたい。実際の人数を教えていただきたい。</p> <p>ニーズ量っていうのはニーズであって絶対量ではないと思う。</p> <p>年齢別の人数はこちらの資料2の方にあるので、例えば、0歳であれば580人が予想数値の中でニーズが225というふうになっているが、年齢別人口も入れていただきたい。</p> <p>3点目、人材確保のところでは2番目、育児休業代替任期付職員とあるのは公立の話でし</p>

	<p>ようか。今保育士の確保が難しいと言っているながら、非正規の人を確保するというのは時代に逆行している気がする。民間では考えづらい。育児休業の代替保育について、私立園に対しどのような支援をしていくのか、聞かせて欲しい。</p>
こども課	<p>この資料について、訂正をお願いしたい。</p> <p>新発田市育児休業代替任期付職員の採用につきましては、現在は新発田市任期付職員の採用という事業になっている。育児休業のみならず、任期付職員、実はこちらは正職員扱いとなっている。非正規ではなく正規職員で採用を行っている。</p> <p>新卒から採用した先生たちの育児休業代替というところで始めた。正職員として期間を決めて採用している先生たちがおり、市の通常の採用試験は何歳までという年齢制限があるが、こうした要件を緩和して、最近であれば57歳までという募集で採用試験を行っている。</p>
こども課	<p>ニーズ量につきまして、1歳児は443人。2歳児は492人、合わせて935人の内訳になっている。確保量は、1歳児が452人。2歳児が567人、合わせて1019人となっている。過不足に関しましては、1歳児が9人、2歳児が75人、合わせて84人となっている。</p>
こども課	<p>委員のご質問の最後の方にありました私立園さんの代替職員の雇用に対しての手当というお話ですが、こういったことについて、ご要望があるのであればお寄せいただきたいと申し上げているので、お聞かせいただければと思っている。</p> <p>待機児童の解消については、当時の市長の政策もありまして、私立園さんのお力を借りて解消させていただいたところである。私も現市長もそのように捉えている。</p>
鶴巻委員	<p>0歳と1歳に関しては、ほぼニーズと確保量が、ギリギリとは言わないですがマッチしているというふうな形で考えていいと思うし、それがわかればありがたい。</p>
	<p>出席委員の挙手多数で、次第3の議題（2）「令和4年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第5章幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業（案）について」については承認された。</p>
議題（3） その他	
平野委員	<p>障がい児のサポートをファミリーサポートでもやっております。</p> <p>いろいろなデイサービスをご家族が利用されているが、そこで間に合わないことを、ファミリーサポートでお受けしている。今現在私がやっているサポートは私の持っている資格では、障がい児の方をサポートするのはとても大変である。</p> <p>ご両親がお仕事されているので、お仕事に行かれる時間前にお迎えに行って、全介助ですので、私の車の中から約1時間降ろすことができない。真夏でも、真冬でも、車の中で冷暖房をかけ、テレビをつけ、約1時間過ごす。</p> <p>こうした状況に対し事業所、各デイサービスの事業者さんでは朝、何かしていただけなのか。</p> <p>正直言って、この仕事を受けたときの打ち合わせとは内容が違うので、私自身も毎日悩みながら時間を使いながらサポートしている。</p> <p>五十公野の支援学校へは、聖籠町からスクールバスが来ており、そのバスは子どもたちを降ろすと、今度竹俣の支援学校へ行く。聖籠町で距離もあるので町としての施策として</p>

	<p>やっているが、新発田市では、各事業者さんとの協力で、できることは考えていないのか。</p>
社会福祉課	<p>今の部分というのは、早朝の一時預かりというふうな形で、早朝のところというのが一番の課題の一つというふうに我々も捉えている。</p> <p>何とかそこを改善しようということでこれまでも、支援学校ですとか、事業所の皆さんですとか、いろいろな方々とお話し合いをしてきたところではあるけれども、まだ結果を出せていない。大変そこは申し訳ないところであるというふうに考えている。</p> <p>今年度につきましても、そこを完全な形ではなくても何らかの形ができないかと思って検討してきたが、結果的に何もできていないという状況である。</p> <p>その点につきまして、私もちょっと行き詰まっている。ちょっと相談しているところもある。その辺りについてまた来年度、しっかりともう一度検討し直して、何とか改善ができるように進めてまいりたいと考えている。</p>
平野委員	<p>息詰まっているというのはよくわかる。この質問したのは私がこの役員を初めてやった年ですので、あれから何も進んでないというのがよくわかった。</p> <p>でも検討していただく課題だと思う。公的機関や各事業所のサービスの見直しをもう一度この場を借りて検討していただきたい。</p>
金山会長	<p>ご検討をお願いしたい。</p>
坂井委員	<p>今のお話、かなり前から出ていて、通学の問題なのか、朝の預かりの問題なのか。事業所の方も人員配置の問題とかいろいろある。どこかに負担がかかっているところを解消しないといけないと考えている。今一度、障がい分野でもきちんと話ができるようにしたいと思っている。</p>
金山会長	<p>ぜひ連携して、お願いしたい。</p>
<p>その他</p>	
事務局	<p>事務局からの連絡</p> <p>①次回の会議開催予定について</p> <p>②事務局から会議録(案)を出席者の皆様に送付し、内容の確認をお願いし、概要について市ホームページに掲載する。</p>
<p>閉会</p>	